

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(南伊勢高校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○自立に向け、基本的生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい教職員の姿	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸長させる教職員 ○小規模校の利点を活かす新しい発想を創造し、活力ある教育活動を展開する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○総勤務時間削減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現 <地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成 <中学校> 学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成 取組内容の中学生及びその保護者への浸透	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<保護者> 学力向上。確かな進路保障 学校との信頼関係 <町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成 生徒の進路保障 <地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成 <地域活動団体> 生徒による地域の活性化への貢献	<保護者> 学校と連携した家庭での生活指導・学習活動への協力 <町・町教育委員会> 地元中学校との連携を円滑に進めるための協力。地元への就職支援 <地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力 地元企業の採用増加 <地域活動団体> 生徒が活躍できる多様な機会の提供
(3)前年度の学校関係者評価など	・教育活動全般において、コミュニケーション力を、伝える力・他者を理解する力の両面で育成する。 ・学校行事等において、生徒たちがグループ等で主体的に活動する場を確保する。 ・人権学習等において、SNS について学んだり、他者のことを想像する学びを確保する。 ・生徒どうしが互いのことを理解し合う場を、意図的につくっていく。 ・管理職は、教職員の様子を日常的に観察するとともに、迷いや困ったことがあったときに相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・教職員間で互いに迷いや困っていることを話し合う場などをつくり、教職員が学び合える機会を保障していく。	

(4)現状と課題	教育活動	多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。 また、福祉活動や「出前図書館」など地域と連携した取組を推進している。 今後、こういった取組をさらに充実させることにより、生徒一人ひとりの成長を促し、希望進路の実現に努める必要がある。
	学校運営等	地域に密着した県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、ボランティア活動・地域行事への参加等さまざまな取組を行い、地域から一定の評価を得ている。 今後さらに、学校の取組を地域の中学生やその保護者に浸透させ、入学者を確保していく必要がある。 また、教職員定数の減少を受け、様々な校内組織の見直しを行う必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を育む。 ・高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる力を育む。 ・個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ・基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ・校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行う。
学校運営等	・地域の多様な主体と協働し、地域からより信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。 ・2つの校舎の生徒がともに切磋琢磨し、学び合える学習環境をさらに高める。 ・業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教職員の一層の資質向上に取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○目的意識を明確にもち、自己実現に向けて意欲的に取り組める者 ○体験学習など、地域に根ざした教育活動に積極的に取り組む意欲のある者 ○スポーツ・文化活動やボランティア活動または生徒会活動に積極的に取り組む意欲のある者
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導等の充実	(1)基礎学力の定着を図り、基本的な学習習慣を確立させる。 【活動指標】日頃から授業規律の徹底を図り、学び直し教材を利用した学習を行うとともに、基礎力診断テストを1・2年生対象に年3回、3年生対象に年1回実施する。全教員による補習を実施する。 【成果指標】基礎力診断テストによる基礎・基本養成レベル(D3-)の生徒が10%未満となり、上級判定となる生徒が増える。 (2)校則にかなった服装を徹底させ、規律を守り、落ち着いた生徒を育成し、授業に集中できる環境をつくる。 【活動指標】学期に2回程度、頭髮服装指導を行うとともに普段から生徒の細かな変化にも気づけるよう声かけなどを行う。 【成果指標】生徒は自己管理能力を高め、高校生としてふさわしい行動・身なりを身につける。 (3)生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう教育相談体制の充実に努めるとともに、生徒はもちろん、保護者・地域と連携し、いじめを許さない学校づくりに取り組む。 【活動指標】いじめ防止に関わるアンケートを学期に1回行い、日常から生徒指導、教育相談の機会を設ける。 【成果指標】生徒は小さな問題でも教員に相談することができ、安心して学校生活が送れることができる。 (4)交通マナーを守る生徒を育成するとともに、交通事故がなくなるように取り組む。 【活動指標】自転車安全指導を企画し、安全教育を行う。また毎月、期間を決めて街頭での交通指導を行う。 【成果指標】生徒に交通安全の意識が高まり、登下校中の危険が減少する。また、交通ルールを遵守する意識が高まる。	(1)成果指標には届かなかったが、部分的には改善している。【成果指標】は未達成(15%) (2)頭髮服装指導は担任団の協力を得ながら行った。再指導等を受ける生徒は減少し、【成果指標】は達成しつつある。 (3)毎学期のいじめに関するアンケートの実施や4月と11月のピンクシャツ運動の実施を通して、いじめを早期に発見し対応するとともに、生徒が相談しやすい環境づくりを行った結果【成果指標】は達成された。 (4)外部講師を招いて、交通安全指導を1年生対象に実施した。また月1回近隣の横断歩道での指導を実施した。この結果、生徒の交通安全の意識が高まり地域からの苦情はほぼ無くなったことから、【成果指標】は達成された。	
ICTを活用した授業等の推進	(1)教職員が以下の視点を大切にICTの活用に取り組む。 ・ICTを活用することにより、個々の生徒に応じた指導を推進する。 ・生徒のICT活用能力を育てる。 ・ICTを活用することにより、「協働的な学び」を推進する。 ・ICTを活用することにより、何らかの理由で登校できない生徒の学習や、非常変災等による臨時休校時における学習を保障できる体制をつくる。	(1)ICTを教育活動の中で日常的に使用する教職員は増加している。8月にGIGAスクールサポーターによる教職員研修を実施。それ以外は全体研修ではなく、個々に疑問点を相談する形で研修を行った。クラウドサーバーの利用や入試のシステム変更な	

	【活動指標】ICTを活用した授業等の推進するための教職員研修を2回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりのICT活用のスキルが向上する。	ど、今後も継続的に取り組む課題は多い。 【成果指標】は達成。	
キャリア教育の充実	(1)社会人として必要な態度・マナーを習得させ、将来にわたっての社会貢献を考えさせる。また、自らの適性を理解し、自己肯定感を持つとともに、生きることの尊さや生命のかけがえのなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。 【活動指標】進路ガイダンスや手厚い個別指導を行う。 【成果指標】就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格100%	(1)個々の生徒の希望を聞き取り、その実現に向けて個別に指導を行った。 【成果指標】の達成とはなかったが、生徒が自身で考えて進路選択をすることができた。	

改善課題

・基礎学力の定着が年々困難になってきている。就職・進学にはもちろん、その後のためにも高校時代の学習が重要であることを生徒が理解できるように努めていく必要がある。

・友人関係のトラブルからいじめに発展するケースがある。教職員のいじめの認知・対応の体制は整っているが、トラブルをいじめに発展させない力を生徒に培っていく必要がある。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)教職員一人ひとりのコンプライアンス意識をよりいっそう向上させる。 【活動指標】学校信頼向上委員会を積極的に活用し、不祥事根絶に向けての教職員研修を年3回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりに、コンプライアンスに主体的に取り組む姿勢が育成される。 (2)教職員一人ひとりの人権意識をさらに向上させる。 【活動指標】教職員対象の人権講演会を年1回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりにより、より充実した人権教育が実践される。 (3)教職員一人ひとりが、特別支援教育の観点から、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】特別支援教育研修会を年1回実施する。 【成果指標】生徒の困り感に対して、特別支援の視点から柔軟な支援がなされる。 (4)防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。 【活動指標】防災訓練等を年2回実施する。 【成果指標】生徒の安全・安心な学校生活が保障される。	(1)コンプライアンス研修を3回実施。【成果指標】は達成。 (2)12月に外部講師を招き、「LGBTQIに関する人権講演会」を実施。8月には校内で教職員研修を行った。【成果指標】は達成。 (3)8月にかがやき特別支援学校より講師をお招きし研修実施した。また、個別の支援計画・個別の指導計画を作成し支援を継続している。各学年と連携して小委員会などを通じて情報交換した。【成果指標】は達成。 (4)9月に県教育委員会教育総務課学校防災・危機管理班による防災学習を実施。12月に消防署の協力を得て、火災時の避難訓練を実施。【成果指標】は達成。	

情報提供による信頼の構築	(1)学校の教育活動や生徒の取組等について、報道機関等へ積極的に情報を発信する。 【活動指標】 ・行事等の取組を年5回以上、報道機関へ情報提供する。 ・ホームページによる情報提供を適宜行う。 ・授業公開、学校見学会等を年2回実施する。 【成果指標】 ・地域の広範囲に学校の取組が伝わる。 ・ホームページが最新の情報を得るツールとして定着する。 ・中学生やその保護者等に学校の様子が正確に伝わる。	(1)報道機関への情報提供は度会町と協力し、情報提供を行った。広報も含めると【成果指標】は達成。(図書館イベント、SBP活動)。 ・ホームページによる情報提供は随時行っている。今年度からインスタグラムも開始した。 ・学校見学会は8/21に37人、8/22に1人が参加。	
働きやすい職場環境づくり	(1)総勤務時間の縮減に努める。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 100% 【成果指標】 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 13時間/月 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 21日/年	・設定日に定時退校できた教職員86.2% ・計画日に休養日を設定できた部活動100% ・放課後に60分以内の会議87% 【成果指標】は未達成がある。部活動指導時間がネックとなっている。 ・1人当たりの月平均時間外労働時間10.6時間 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数8人 ・年360時間を超える時間外労働者の人数1人 ・1人当たりの年間休暇取得日数23.7日	
改善課題			
・公務員による不祥事が発生していることから、コンプライアンス意識の向上と、不祥事を発生させない体制づくりの取組が今後とも必要である。 ・人権教育、特別支援教育に関わる研修を、より本校の実態に即したものとなるよう、継続・充実させていくことが必要である。 ・時間外労働時間の縮減のため、業務内容の精選が必要である。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・ヘルメットの着用率をあげていくために、交通安全指導をしながら呼びかけを続けてほしい。町・市・県単位で取組を行うことも必要。また交通事故防止のために通学路の環境整備も地域に要望していく。 ・人権学習等においては、社会に出る前に正しい知識を身につけさせたい。小中学校とも連携し、継続した指導をしていただきたい。 ・生徒たちが自分たちで納得する解を持てる学習を行っていくことが大切である。グループでの学習などを活用し、生徒たちにいかに考えさせるか、周りが何を考えているのかを知る機会をつくってほしい。 ・SNSの問題については、他者のことを想像する力の欠如が原因の1つであると考え。どの教科においても子どもたちにいかに想像力をつけさせるか、他者のことを想像する学びを確保する。教え込むのではなく、先を見通せる力や情報の取舍選択ができる力をつけさせてあげたい。 ・コロナ禍を経て、生徒たちのICTスキルは向上している。ICTの活用をさらに進めてほしい。 ・働き方改革として物理的な勤務時間を減らすだけでなく、職場の周りの先生がフォローできる体制づくりが必要。管理職には、相談できる雰囲気づくりや場所づくりをお願いしたい。 ・高校生が地域と関わる活動をととして、地域が元気になるだけでなく、生徒たちの自己肯定感を高める機会にもなっているため、今後も地域と連携した活動をお願いしたい。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・交通事故防止のために、ヘルメットの着用などを呼びかけ、交通安全指導をおこなう。 ・人権学習等をととして、よりよい社会をつくる一員となれるよう、他者を知り、他者のことを想像する機会をつくっていく。 ・生徒が主体となって学びをおこなう機会を増やしていく。そのため、アクティブラーニングをさらに取り入れ、多様な考え方を知り、それを受け入れる学習活動をおこなっていく。 ・地域との連携した活動を通じて、生徒たちの自己肯定感を高める機会をつくっていく。
学校運営についての改善策	・管理職は、教職員の様子を日常的に観察するとともに、相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・職場の周りの先生がフォローできる体制づくりをおこなうなど、先生が気軽に相談できる場所をつくっていく。